NIHON UNIVERSITY DISTANCE LEARNING DIVISION ALUMNI ASSOCIATION

日本大学 通信教育部校友会報

発行所：日本大学通信教育部校友会　〒102-8005　東京都千代田区九段南4-8-28　日本大学通信教育部内　TEL・FAX　03（3234）5858
発行責任者：鈴木　勝／編集責任者：師田 袈裟茂　通信教育部校友会ホームページ：http://www.nudld-koyukai.sakura.ne.jp/wp/

子曰、君子博学於文、約之以礼、亦可以弗畔矣夫、

先生がいわれた、「ひろく書物を読んで、それを礼〔実践〕でひきしめていくなら、道にそむかないでおれるだろうね」

『論語』

平成30年元旦　謹賀新年

新年のご挨拶

日本大学通信教育部校友会
会長　鈴木　勝

新年明けましておめでとうございます。

全国校友の皆様に、心から新年のご挨拶を申し上げます。

昨年も台風や集中豪雨による災害が数多く発生した年になりました。被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

第46回定期総会で会長に承認されてから、7ヶ月が過ぎたところです。10月21日に9月卒業生の学位授与式があり、96名の卒業生を迎え、通信教育部の卒業生総数が34651名になりました。

また、平成28年に初めて実施したホームカミングデーを昨年も10月2日に実施いたしました。今回は通信教育部で十数年前から開講しているメディア授業の体験を取り入れて、校友26名の参加をいただきました。今年はもうすこし早目に計画を立てて、校友の方々に広く広報して、多くの参加者を迎えるべく進めております。楽しみにしてください。

昨年は、6ヶ所のブロック総会（北信越・東海・東北・関東・近畿・四国）に出席させていただきました。たいへんお世話になりました。直接校友の皆様からご意見を伺うことができ、有意義な時間だったと思います。

お預かりしたご意見を幾つか取り上げてみますと、◎役員の高齢化による活動範囲の縮小、◎新入会員がいないための会費収入の減少、◎指導員の補充が無いための、多くの県における学生センターの廃止等々です。

厳しい現状に関する意見が多い中で、数県の支部では、「若い新しい卒業生が幹事に加わって手伝ってくれています。支部全体で大事に育てていきます」という話ありましたことも報告させていただきます。

校友会の発展は、支部の活性化無くしてはありえないとあらためて認識いたしました。わずかですが、30年度予算では支部支援費を増額する計画です。

通信教育部校友会は、4年後の2022年に設立50周年を迎えます。記念事業も今年から計画していく予定です。皆様のご意見をお寄せください。よろしくお願い申し上げます。

1月20日(土)に日本大学桜門会館で新年会を開催いたします。大学教職員・学生・他学部校友会役員の皆さん等、様々な方が参加されます。多くの校友の参加を希望しています。また、5月19日(土)には第47回通信教育部校友会定期総会が開催されます。校友の皆様のご出席をお待ちしております。

諸先輩方が築かれました通信教育部校友会が益々発展するように、役員一同で、今年も努めてまいりますので、校友の皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。新年にあたり、皆様のご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

日本大学通信教育部
部長　関　正晴

通信教育部校友会の皆様、新年明けましておめでとうございます。日頃の通信教育部と学生支援へのご配慮に厚く御礼申し上げます。

本年は、通信教育部にとって創設70周年という節目の年にあたりますので、新たな気持ちで教職員一同、心を合わせて一層の発展に向けて邁進する所存です。

おかげさまで市ヶ谷の新校舎への移転後は、新入生の増加傾向は維持されています。3年に遡った入学者数の推移は、前年度と比べて、平成27年度は245名、平成28年度は166名、平成29年度は187名の増加となっており、3年間連続して前年よりも入学者の増加となっています。その中で1学年からの入学者は、平成29年度では、全体の38パーセントを占め844名という多数に達しています。その背景には、市ヶ谷駅の近隣という恵まれた通学環境だけでなく、通信教育部への生涯学習機関としての期待や、通信教育により大学卒業資格を取得したいという要望が根強いことにあると思われます。この傾向を確実なものにするために、現在、通信教育部では社会のニーズに即した授業科目の採用、スクーリングとメディア授業の充実を進めています。特に地方においては、既に大垣日本大学高等学校を会場とし東京市ヶ谷で実施する授業を同時に送信して、東京と地方での同時サテライトスクーリングを実施しました。通信教育部では、このような取組を分析して、スクーリングやメディア授業の質の向上をめざしているところです。

ところで、昨年は、桜門会館で開催された通信教育部校友会第46回定時総会・懇親会と姫路市で開催された第23回近畿ブロック総会・懇親会に出席する機会を頂きました。その際、通信教育部に対するご支援の温かい言葉とともに、地方の通信教育部入学者を増加させてほしいとの意見も頂きました。この問題は、なかなか本格的な改善策を見出せない状況にありますが、通信教育部では、それぞれ地域の実情を分析した上で時期、回数を考慮して、より効果のある入学説明会を開催して入学者を増加させ、また、地方在住の学生への学修支援のあり方を検討して、より良い学修環境の整備に努めたいと考えております。そのためには、校友の皆様と通信教育部の教職員が連帯感をもって活動することが重要となります。これとも関連しますが、通信教育部では校友会と共同で卒業生に母校の現在の姿を知ってもらい校友間の絆を強めることを目的として、2回目のホームカミングデーを昨年の10月に実施しました。本年も校友間の親交を深めるために、より多くの校友が参加できる時期等を検討した上での開催を考えております。

更に、通信教育部の最新の情報をお知らせしますと、昨年の12月1日から1か月間、通信教育部の特徴、建物、授業の様子を撮影したCMがJAL国内線で放映されました。このCMのDVDを校友会ブロック総会などで利用して頂くことも検討しています。

新年にあたり、校友会の皆様のご多幸と校友会が更に発展されることを祈念しまして、ご挨拶とさせて頂きます。

新年のご挨拶

学校法人日本大学理事長
日本大学校友会会長
田中　英壽

通信教育部校友会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。平成29年はどのような一年でしたでしょうか。日本大学は今年で創立129年目となり、いよいよ来年は創立130周年を迎えます。平成23年に「日大再生10年計画」を宣言し、その核となる130周年記念事業は着実に進んでおります。平成26年に日本大学病院の開院、平成27年に日本大学藤沢小学校の開校、平成28年に新学部としては昭和63年に薬学部が設置されて以来、28年振りとなる「危機管理学部」と「スポーツ科学部」の開設、平成29年に就学前の子供の教育・保育・子育てを支援する「日本大学認定こども園」を開園しました。また、この間遠隔地の学生の負担軽減を実現することになる学生寮を7棟、計800室を設けました。今後さらに2000室まで増やす計画です。今後の計画としては、最重要課題である医学部付属板橋病院の建て直しを実施します。学生支援におきましては、意欲と能力がある学生が経済的理由により修学を断念することなく安心して学業に専念できるように給付型奨学金の日本大学創立130周年記念奨学金を制定しました。平成29年度の大学入試におきましては、志願者数が実に20年ぶりに11万人を超えました。これは今まで推進してきた事業が実を結び、受験生やその保護者をはじめ多くの方々に評価されてきた証の一つであると自負しております。　今年11月に創設70周年となる通信教育部においても、平成26年9月、市ヶ谷にキャンパス移転後は、学生数が増加傾向にあり、一昨年4月から学修支援センターを設置することで、更なる学生へのサポート体制の充実を図っております。しかし、喜んでばかりもいられません。国の政策として入学定員の厳格が打ち出され、定員超過率が1・0倍となれば平成28年度と比較して年間100億円の減収となります。さらに東京23区内の私立大学の定員を抑制するとの文部科学省方針が示され、大学を取り巻く環境は厳しくなるばかりです。だからといって、立ち止まっているわけにはいきません。日本一の総合大学の強みを生かし、「日本一教育力のある大学」を目指し、これからも様々な改革を立案し実行に移し、その成果を上げていくことをお約束いたします。今後の日本大学に大いに期待していただき、日本大学と日本大学校友会の発展のため、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

校友の皆様にとってすばらしい年となり、通信教育部校友会が更に発展されることを心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。